

## 研究課題名

外傷性視神経症を併発した中顔面骨骨折に関する後方視的観察研究

## 研究の対象となる方

1) 2021年4月から2023年9月までの3年5か月間に、当院で外傷性視神経症を伴う中顔面骨骨折と診断され治療を受けられた方

## 研究の目的・意義

外傷性視神経症は、頭部外傷の約0.5~5%、中顔面骨骨折の2.5%に合併する比較的まれな外傷病態であるとされています。

外傷性視神経症は視機能に様々な程度の障害を及ぼし、ときに永久的な視力障害をきたすことがあり、迅速な対応が求められます。

外傷性視神経症に対する治療法としては視神経に対する圧迫を外科的に解除する方法と、視神経の循環障害の改善を促すステロイドパルス療法があります。治療法に関する明確なガイドラインはありませんが、積極的に視神経管開放術を行った方が予後が良いという報告が多くなされています。

視神経管開放術は、以前は開頭手術が主流でしたが、近年ではより低侵襲な経鼻的アプローチが主流となっており当院でも2021年以降、外傷性視神経症を伴う中顔面骨骨折に対しては耳鼻咽喉科頭頸部外科と連携し、中顔面骨骨折の治療と並行し積極的な経鼻内視鏡補助視野下での視神経管解放術を施行しています。

本研究では外傷性視神経症を伴った中顔面骨骨折症例の診断と治療による予後経過を調査することで同様の外傷病態に対する適切な治療戦略を明らかにすることを目的としています。

## 研究の方法

研究者は、カルテの情報をもとに下記の項目を調査票に記入して情報を得ます。

収集したデータは集計（平均値や割合%を計算）して使用します。その際には個人情報完全に消去された状態で取り扱います。

<調査票に記載されている調査項目>

- 1) 年齢
- 2) 性別
- 3) 受傷機転
- 4) 中顔面骨骨折の病態
- 5) 術前の視力障害の程度

- 6) 治療法
- 7) 術後の視力回復の程度

#### 研究の期間

2023年12月(研究許可後)～2024年3月31日

#### 研究組織

この研究を行う研究者、研究機関は次のとおりです。

#### 研究責任者

管野貴浩(かんのたかひろ)

島根大学医学部歯科口腔外科学講座

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1

TEL: 0853-20-2301

#### 研究事務局

奥井達雄(おくいたつお)

島根大学医学部歯科口腔外科学講座

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1

TEL: 0853-20-2301

#### 情報の利用停止

ご自身の情報をこの研究に利用してほしくない場合には、ご本人または代理人の方からお申し出いただければ利用を停止することができます。

なお、利用停止のお申し出は、2024年1月までをお願いいたします。それ以降は解析・結果の公表を行うため、情報の一部を削除することができず、ご要望に沿えないことがあります。

#### 相談・連絡先

この研究について、詳しいことをお知りになりたい方、ご自身の情報を研究に利用してほしくない方、その他ご質問のある方は次の担当者にご連絡ください。

研究責任者：

島根大学医学部歯科口腔外科学講座／附属病院歯科口腔外科 管野貴浩

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1

電話 0853-20-2301 FAX 0853-20-2299

研究事務局

島根大学医学部歯科口腔外科学講座／附属病院歯科口腔外科 奥井達雄

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1

電話 0853-20-2301 FAX 0853-20-2299